

令和元年度 福島県立光南高校卒業証書授与式 式辞

県南の地に光がさし、希望に満ちた春を迎えつつあるこの佳き日に、令和最初となる、卒業証書授与式を挙げていただけますことは、誠に喜ばしい限りであり、御臨席を賜りました福島県教育委員会委員 浅川なおみ様を始めとする御来賓と保護者の方々に厚く御礼を申し上げます。

ただ今、呼名されました一九六名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんの新たな門出を祝福しますとともに、今日まで陰に陽に見守ってこられた保護者の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

光南高校第二十二期生の皆さんは、本日限りで卒業します。新型コロナウイルスの感染拡大防止の厳戒態勢がしかれる中にあっても、来月からの新しい生活に向け、気持ちに区切りをつけ、旅立ちの決意を確かなものにするため、やむを得ず在校生不在ではありますが、卒業式という厳粛な場を設けましたので、もう一度光南での日々を振り返り、入学した時の初心を、改めて思い起こしてみてください。

三年前、真新しい制服に身を包み、この体育館で行った入学式、そして翌日の新入生歓迎会で先輩方に温かく迎えられ、皆さんは光南生の仲間入りをしました。毎日の授業は、興味関心や進路希望に合わせて自分で選択し、文系や理系、体育や家庭、音楽や美術、商業や福祉など、総合学科特有の幅広い分野を学んできました。スポーツ大会や文化祭などの学校行事では、クラスメイトと協力しながら生徒主体で大いに盛り上がり、部活動では、先輩や後輩、仲間とともに、目標に向かって活動しました。

また、高校時代は自分探しの時期とも言われ、自分に自信が持てず、時には迷い、悩み、苦しんだことも多かったと思います。その日々は、五・七・五の型にとらわれない俳人、種田山頭火の俳句で表現するならば、「分け入っても、分け入っても、青い山」。まさに出口の見えない暗闇のように感じたこともあったでしょう。

私は、皆さんと出会った昨年四月から、教職員とともに、多様な個性がコラボレーションする学校、社会の中で生き抜く力を育む学校、安心して学び続けることのできる学校の三つを方針に掲げ、一人一人の夢の実現に向け、教育活動に取り組んでまいりました。その中で、これまで勤めてきたどの学校よりも、生徒の個性の輝きと、大きく飛躍する可能性を強く感じました。その予感は見事に的中し、皆さんは、学業はもとより、スポーツや文化、芸術、ボランティアなど、多様な分野で活躍し、中には東北や全国の場でその力を発揮する生徒もおりました。卒業後の進路においても、これから受験する生徒も含め、大学や短大、専門学校、県内外の企業や公務員など、全員が自分の夢に向かって懸命に努力を重ねてきました。

三年間の高校生活を通して皆さんは、自分に磨きをかけ、無自覚のうちにも立派に成長し、自分なりの生きる術、自分の武器を手にするとともに、個性豊かな仲間たちと出会いました。この自分とは異なるたくさんの個性との出会いこそが、光南高校の最大の魅力であり、卒業後においても皆さんを助け、時にはコラボし、更なる高みへと導いてくれることでしょう。

さて、皆さんが生まれた二〇〇一年の頃は、世界中が二十一世紀の幕開けに歓喜し、新しい時代への期待が高まり、その頃に生まれた皆さんは、未来への希望でもありました。また、世界では、依然、国どうしの争いが絶えませんが、皆さんの育ってきた平成の時代は、昭和の時代の暗い歴史を教訓とし、日本では人と人とが争い、命を奪い合う戦争はなく、平和な時代でありました。

しかし、二〇一一年三月、ちょうど皆さんが十歳になる頃、本県では東日本大震災という史上類のない複合災害により、数多くの命が奪われました。建物にも大きな被害が生じ、電気や水道も使えず、生活物資も無くなり、これまでの生活が一変し非日常が当たり前となりました。そして令和の時代となった昨年十月には、台風十九号とその後の豪雨が甚大な被害をもたらし、この地域でも尊い命が失われました。そして、今、新型コロナウイルスが世界中で猛威を奮い、私たちの生活を脅かしています。

このように社会は、たくさんの課題に溢れており、そこに生きる若者には、戦争のように、争い、憎しみ合うのではなく、互いを思いやり、協力しながら課題を乗り越え、安心して暮らせる社会を作り上げていくことが大切になります。

日本の古い諺に「男子家を出ずれば七人の敵あり」という言葉があります。これから社会に出る男には、たくさんの敵がいるので油断をするなという意味ですが、共生社会の現代においては、その意味は昔と全く異なります。社会にはたくさんの課題があるので、男女ともに互いに個性を認め合い、力を出し合いながら解決しなさいという教訓として、解釈すべきだと思っています。

皆さんはこれまで、高校生として多くの方々を支えられながら学んできました。これからは、社会の一員として、与えられる側から与える側に少しずつ変わり、安心して暮らすことができる平和な世の中を築いてください。

保護者の皆様。本日の喜びは如何ばかりかと拝察いたします。皆様にとってかけがえのないお子様の教育に、私たちを信じて御協力いただいたことを感謝しますとともに、これまでの皆様の御苦労に対しまして深く敬意を表します。私たち教職員は、如何なる時も誠意をもって真摯に教育に取り組んできたつもりではありますが、果たしてその思いは生徒たちに届いたであろうかと、今は省みることしかできないでおります。

卒業生諸君。皆さんの卒業は、もちろん、皆さん一人一人の努力の賜物ではありますが、同時に温かい愛情を持って励まし支えてこられた御家族や多くの方々のお陰でもあります。卒業式という旅立ちの門出において、これまでお世話になった方々に感謝の気持ちを伝え、しっかりとけじめをつけ、立派な大人として、光南高校の象徴である神の鳥・朱雀のごとく、新しい世界に向かって、堂々と羽ばたいて行ってください。

卒業生の皆さんのこれからの人生に、幸多からんことを心から願い、式辞といたします。

令和二年三月一日

福島県立光南高等学校長 郡司 完